文化財調査・普及員通信

さねさし

第 24 号

発　行
平成２５年３月９日
相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

文化財愛護
シンボルマーク
両手のひらと日本建築伝統の組物をイメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

公開セミナー「考えよう旧石器時代のライフスタイル」のお手伝いをしました

このセミナーは、東京・神奈川・埼玉三都県の埋蔵文化財調査研究財団が持ち回りで開催しているものです。今回はかながわ考古学財団が当番だったので相模原で開催することになったものです。

会場は、橋本杜のホールでした。ホールホワイエには、ポスターや各種関連資料の毛時や発掘された旧石器遺物が展示され、それぞれのコーナーに関係者が配されました

私たちは、受付係と市内遺跡紹介コーナーに配属され、来訪者の応接にあたりました

スタッフN氏は、女性の参観者からの質問を受けて応対し「うまく応えられなかったけれど参観者の熱気にパワーをもらいました。」と感想を語っていました。

セミナーのサブタイトルは、＝人とモノの移動から探る旧石器時代の生活＝というもので午前１０時の開会から昼をはさんで午後４時半までを３部構成でおこなわれました。

第２部の冒頭には特別講演があり、１部２部あわせて５人＝５本の基調報告がありました。

目　次

① 公開セミナー「考えよう旧石器時代のライフスタイル」のお手伝いをしました
② ・山梨県大月市　猿橋
　・大田区　遺跡見学
③ ・上磯部の土塁と伝金子氏の館
　・雛鶴姫悲話
④ 文化財紹介マップ―西部班
　～田名地区探訪　その２～

それぞれの報告は、最新の発掘情報もふまえたかなりふみこんだ内容だったように思いました。第４報告では《南関東への旧石器人の侵出は、37,000 年前ころである》といった見解が示されたりとか、旧石器時代を 27,000 年前を境として前半期と後半期に区切る考えかたなどは、目新しいものと感じました。

第３部は、報告者５人と講演講師もくわわっての討論会でした。この討論会では、一般参加者から挙げてもらった質問にも応える設定もありました。

最後はセミナーの総括がなされました。《旧石器時代前半では小集団の離合衆参が繰り返され回帰的移動生活が営まれていた。後半になると回帰幅が狭くなりサイクルが短くなってきて、同じ場所を繰り返し使うようになった。》

このまとめにスタッフＳ氏は「すっきりしていてストンと落ちるものがあった。」と感激していました。

この日の参加者数は290人を超えていたそうで主催者も自賛していました。参加者には、若い女性の姿もあり、考古ファンの幅の広がりを感じました。

（田名向原遺跡ボランティアガイド
実行委員会　畠山）

山梨県大月市　猿橋

11 月 23 日に晩秋の紅葉真っ盛りの中、北部班の活動として山梨県大月市猿橋を訪れました。

橋本駅を出発し、八王子と高尾で乗り換え、列車で進行方向右座席にすわり、猿橋の名所とつながる八ツ沢発電所や桂川（相模川の上流）沿いを眺めながらＪＲ中央本線の猿橋駅に到着しました。

開業時（1902 年）植樹の①「やまなしの木」から、甲州街道国道 20 号で歩道が狭いところは避けて､安全な道を通り見学を開始しました。

駅の周りを順に

②三島大明神・円行寺

③庚申塔・一里塚

④大椿寺

中央本線に沿った道を歩き

⑤国の名勝猿橋（昭和７年）

大月市の観光ボランティアの方にガイドをお願いしました。

・猿橋（日本三奇橋）の珍しい構造

長さ 31m幅 3.3mの木橋で谷が 31mと深く、橋脚を使わずに両岸から張り出した四層のはね木によって橋を支えている｡中世の頃には軍事上敵の侵入を防ぐための要所としても重要な橋でした。江戸時代には橋の周りを主体とし甲州道中猿橋宿として賑わいました。

・八ツ沢発電所一号水路橋：国指定文化財

・中央本線のトンネルの跡：明治時代は蒸気機関車が猿橋の所を通っていた。

⑥猿橋溶岩は玄武岩で、約９５００年前の猿橋溶岩流の跡が断崖付近でみることができます。

⑦大月市郷土資料館で館長の解説をうかがいながら、縄文土器・大月からの富士山・猿橋の構造模型・猿橋宿模型や郷土資料等見学本尊一願弘法大師をはじめ、四国、西国、秩父、坂東各札所、両界曼荼羅諸尊一八羅漢などがあり、洞内には古の厳しい修行を彷彿とさせる無数のノミ跡があります。

⑧馬頭観音等

を見学しました。　　（北部班　村上）

大田区・遺跡見学

2012 年７月 25 日。東南班の安岡氏の案内で大田区の遺跡見学に向かいました。JR 大森駅を出て品川方面に進むと、「大森貝塚の碑」があります。そこから数分歩くと「大森貝塚遺跡庭園」に到着します。ここは 1877(明治 10)年、アメリカから貝類の研究のため来日したエドワード・モース博士が、横浜から新橋に向かう車窓から線路沿いに累積している貝殻を見つけ、貝塚であることを直感した所で、日本の考古学発祥の地となりました。

その後、日蓮宗大本山「池上本　門寺」に向かいました。本門寺は鎌倉時代からこの地にあった寺を 1276(建治 2)年、日蓮が命名したのが起源とされています。欅造りの総門の扁額は本阿弥光悦の書(複製)、山門の石段は加藤清正の寄進と言われています。本尊は日蓮大上人坐像です。ほかに五重塔、宝塔など重要な文化財が境内に広がります。広大な墓地には数々の歴史上の人物や文化人のほか、プロレスラー力道山の墓があり、今も参拝者が絶えません。

（東南班　北岡）

上磯部の土塁と伝金子氏の館

市の文化財に登録されている上磯部の土塁は謎でした。それが金子家の当主の一言、一挙に解決されました。「本当は北側のお墓の南に、もう一本の土塁があったのだ。戦後までこんもりとしていたけど、人の手によって平らにしたんだよ。」思いがけない一言は、ジグソーパズルでどうしても全体像が出来上がらずにいる時に停滞が解除、その進展に決定的な意味をもつ１ピースとなりました。

以下にその証拠と状況をまとめてみます。

◎土塁間の畑は“うち屋敷”と呼ばれていた。

◎うち屋敷に、昔から“＊金子十郎稲荷”を金子両家で祭ってきた。

＊金子十郎稲荷＝鎌倉時代前夜から活躍した武将金子十郎家忠を祭神としている。1185 年、十郎家忠は屋島の戦いで源義経､河野四郎通信(一遍上人の祖父で伊予の代表的武将)と奮戦。(『吾妻鏡』)◎金子両家の屋敷と田畑は地続きで広く、ほぼ均等に地分けされている（図参照）

◎下磯部からうち屋敷に至る旧道は左右に折れ、直進を妨げる道となっている。

◎旧道の近辺に城条家が存在する。

◎金子家は、小沢城金子氏の縁者と伝わる。

金子両家は専業の篤農家、実直で科目です。

以上のような事柄を両家は喧伝するわけでもなく、ひたすら身内の事柄とし、連綿と維持してきたのでした。茶飲み話の時にうちとけて発せられた一言で、そのありようがかえって真実味を増してきます。

金子氏は小沢城の金子氏につながる豪族と考えられます。塩田・金子氏も同様の縁者です。北条氏の八王子城に仕える金子氏があり、さらに検証が求められます。（南部班　中島）

雛鶴姫悲話

津久井に残る哀しい物語を紹介します。串川の信玄道の脇にひっそりと建つ宝篋印塔に纏わる姫のお話です。

天皇が南朝と北朝に分かれ、世の中は乱れていました。南朝の後醍醐天皇の皇子護良親王は建武の中興で活躍しますが、足利尊氏に捕えられ、鎌倉の土牢に幽閉されてしまいます。その后、淵辺義博に首を斬られ無念の最期をとげました。護良親王の側室雛鶴姫は「親王のみしるしを都にお運びし葬らねば」と家臣と共に鎌倉を抜け出します。小田原からは、北条勢の危険のある東海道を避けて相模川に沿って都を目指しました。親王の御子を身ごもっていた姫は、津久井の青山村に辿り着いた時、病を発しあるお寺に保護されます。その后、病の癒えた姫一行は、青野原、牧野を通って甲州秋山村に向かうが、産気づいた姫は、男子を出産します。しかし、寒さと疲れで姫も御子も息をひきとったと伝えられています。

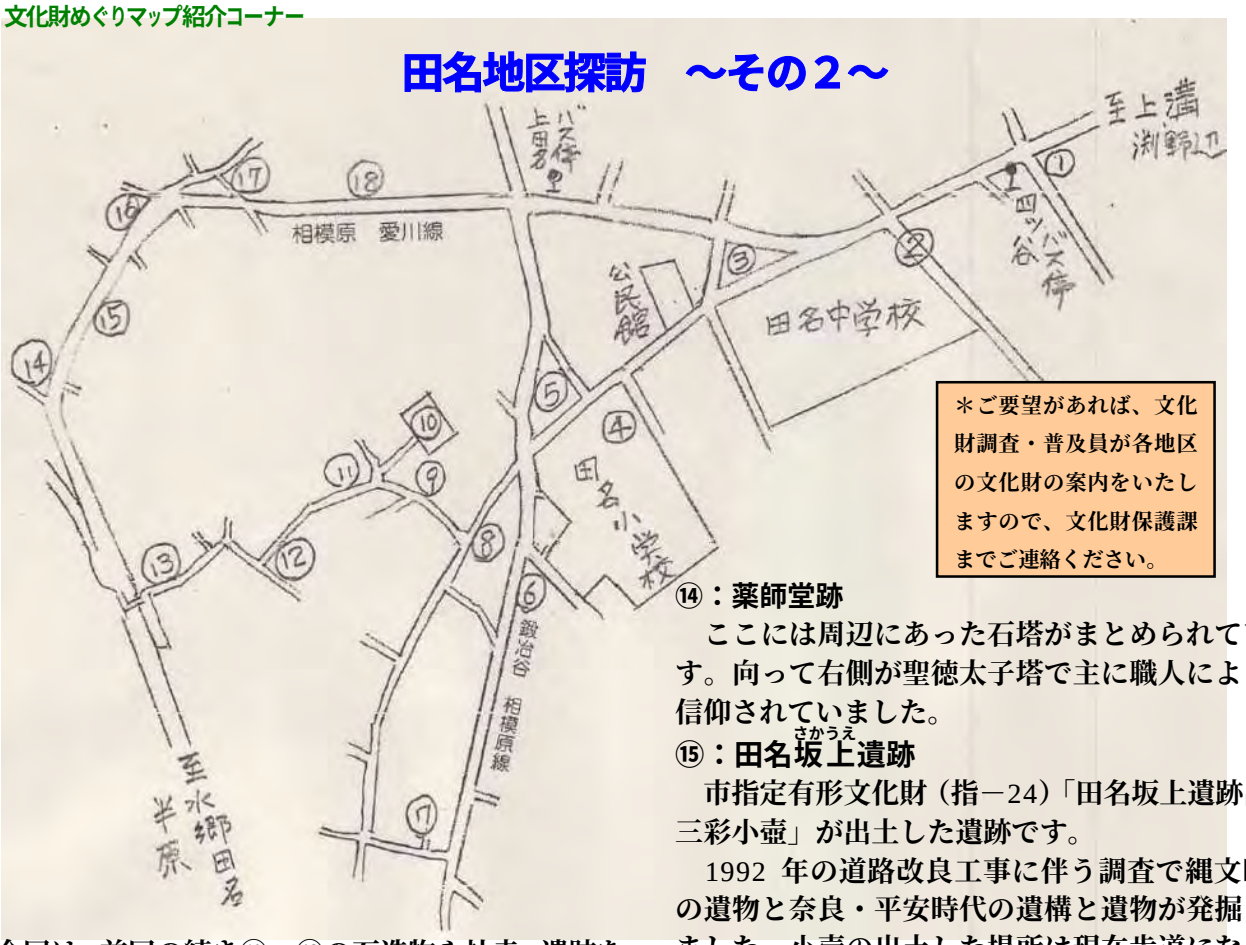
津久井の青山村では親王の三十三回忌に僧蓮明がお経千部を納めて、供養塔を建てました。

これを「千部塚」と呼んでいます。

現在市登録文化財となっていますが、周辺は畑と化して崩れかけた宝篋印塔が姫の哀しみを代弁しているかの様です。

（津久井班　久能）

田名地区探訪　～その２～



＊ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

今回は、前回の続き⑩～⑱の石造物や社寺、遺跡を紹介します。

終着は上田名バス停です。

⑩：相模田名民家資料館

木造の古民家風資料館です。2 階は養蚕関係や古い道具類の展示室で、1 階はひな祭りなどの季節行事が行われます。

入館料無料、月・火・水曜休館

⑪：蚕影山神社・道祖神

養蚕の神として信仰を集めた社です。祠の中にお諏訪様と金比羅様が一所に祭られています。

社に向って右側には、元の場所から移された庚申塔などがありますが、なかでも道祖神の陽石は近隣の市町村にはない、みごとなものとして有名です。

⑫：烏山領制札場旧跡

市登録史跡（登－18）です。

江戸幕府や藩の命令・知らせなどの立て札を立てた場所です。田名村は江戸時代中頃から明治維新まで現在の栃木県にあった烏山藩の領地でした。

⑬：馬頭観音

愛馬の死をいたんで建てられた供養塔です。旧道の坂道の上に祭られており荷物を背負った馬の事故が多発したと思われます。二基ありますが、かなり風化が進んでいます。

⑭：薬師堂跡

ここには周辺にあった石塔がまとめられています。向って右側が聖徳太子塔で主に職人によって信仰されていました。

⑮：田名坂上遺跡

市指定有形文化財（指－24）「田名坂上遺跡出土三彩小壺」が出土した遺跡です。

1992 年の道路改良工事に伴う調査で縄文時代の遺物と奈良・平安時代の遺構と遺物が発掘されました。小壺の出土した場所は現在歩道になっています。

⑯：庚申塔・六地蔵

歩道の脇に庚申塔などがあります。風化が進んでいます。

⑰：地蔵様・田名堀ノ内遺跡（2004 年調査地点）

小さな祠の中に 2 体のお地蔵様が座っています。この周辺は、田名堀ノ内遺跡の範囲です。2004 年の調査で旧石器時代（2 万年以上前）の遺構と遺物が発掘されています。現在は道路です。

⑱：田名堀ノ内遺跡（1995～96 年調査地点）

1995～96 年の調査で縄文時代の遺物と奈良・平安時代の遺構・遺物が発掘されています。縄文時代後期の筒形土偶が出土しています。土偶の出土した場所は、現在歩道です。　　（西部班　鹿山）

◎文化財保護課からのお知らせ

「相模原市遺跡発掘調査発表会」を開催します！

最新の市内発掘調査の成果を埋蔵文化財調査員が発表します。

日時：平成 25 年 3 月 24 日（日）午後 1 時～4 時 30 分

会場：旧石器ハテナ館

＊申込不要　　＊参加費無料

＊文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは相模原市のホームページからダウンロードできます。

発行連絡先　　相模原市教育委員会　文化財保護課　　電話　０４２－７６９－８３７１